

地方創生交付金事業等についての質問・回答

資料 6

事業の名称	質問	担当課	回答
労働力人口の確保プロジェクト	1 セミナーや講座の内容と開催形式(対面式、オンライン形式、併用など)について教えてほしい。また、オンライン活用に関して庁内で情報共有等は実施しているか教えてほしい。	経済政策課	事業は対面式で実施しました。 オンライン活用に関する情報共有等は実施していません。
	2 セミナーや講座の内容が、受講者ニーズに対応しているかなど、分析はしているか。	経済政策課	創業促進事業については、一部の事業を除きまして、セミナー等の開催後にアンケートを実施し、次年度以降の参考としています。 女性・若者活躍推進支援事業については、講座終了後、受講者にアンケートを実施しています。
	3 創業支援を受けた創業者の成功事例を教えてください。	経済政策課	飲食店を営む個人事業主(広報費及び店舗等借入費を補助)で、創業後にメディアに取り上げられ、満席の状況が続いているとのことで、アルバイトによる雇用も創出しています。
	4 テレワークが進んだ場合、「労働の場＝生産の場」ではなくなるが、その場合どのように労働力人口を捉えていくのか。	経済政策課	テレワークが進んでも就業者であることに変わりはないことから、労働力人口の考え方に影響はないものと考えています。 「労働力人口」は、総務省統計局「労働力調査」の定義により、「15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせた人口」であり、就業者は、自営業主、家族従業者、雇用者(役員を含む)。

事業の名称	質問	担当課	回答
人が集い新たな価値が生まれるにぎわいとくしま推進事業	1 KPIのまちづくりに携わった人数について、年齢別の割合がわかれば教えてほしい。	都市建設政策課	参加者の詳細な年齢まではデータをとっていませんが、20代～40代が主な参加者層となっています。
	2 2021年の本交付金事業を通じた移住・交流人口創出数(人)のうち、実際に移住した人数を教えてください。	企画政策課	本市の移住施策を通じ、5人の県外在住者が徳島市に移住しました。
	3 移住促進事業について、他の地方との差別化を図った取り組みが必要であると思われるが、今後の新たな方向性についてどう考えているか。	企画政策課	地方・田舎暮らしをPRする地方では、数名の移住者でも成功といえるが、徳島市の場合はより大勢の人たちに訴えかける必要があります。徳島市が移住先として魅力的な場所であるというイメージを広く根付かせていく取組に注力していきたいと考えています。
	4 「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の推進」について、11月の社会実験の詳細(性別、年齢、市内外者別の人数など)を教えてください。例えば想定数などがあれば参考に教えてください。	都市建設政策課	周遊船2隻(1隻定員12人)で上り下り各10便運航(1日500円乗り放題)し、121人が利用しました。内訳については、次のとおりです。 年齢別:15歳未満40人、16～19歳1人、20歳代13人、30歳代32人、40歳代14人、50歳代11人、60歳代6人、70歳代4人。 市内外者別:市内67人、市外43人、県外7人、不明4人。
	5 「阿波おどり等交流促進事業」の民泊実施事業について、具体的な普及啓発の内容や準備状況について教えてください。	にぎわい交流課	令和3年度阿波おどりの開催規模の縮小にともない、民泊実施事業を見直し、アフターコロナに備えて安全な宿泊施設の環境整備や普及啓発するためのセミナーを開催する事前準備として、事業者を対象としたアンケート調査を実施しました。

事業の名称	質問	担当課	回答
イーストとくしまDMO ニューツーリズム推進による 新たな事業創出による地域 活性化の実現	1 KPIである宿泊者数について、徳島市の目標値(全体の割合の目安などでも可)はあるか。	にぎわい交流課	イーストとくしまDMOでは15市町村全体の目標値を設定しており、徳島市のみの目標値は設定していません。(域内の宿泊施設の収容定員のうち徳島市が占める割合は約5割のため、目標値も同程度の割合と推計されます。)
	2 来訪者満足度についてどのような調査方法を採用しているのか、またどのような項目があり、それぞれどのような評価を受けているのか教えてほしい。	にぎわい交流課	域内の観光施設である、阿波おどり会館、渦の道などの観光施設に、来訪者向けQRコード付きのアンケートパンフレットを設置し、調査・集計しています。大変満足から大変不満の7段階の区分を設定し、大変満足41%、満足42%、やや満足5%、普通12%となっている。また下記の項目ごとに満足度を調査しています。 「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」 「魅力のある特産品や土産物が多かった」 「魅力的な宿泊施設が多かった」 「子どもが楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「地元の人へのホスピタリティを感じた」 「現地で良い観光情報を入手できた」 「現地へのアクセスが良かった」
	3 来訪者満足度で評価が低かった項目を教えてください。また、低かった項目を重点的に改善するのか、高かった項目をさらに伸ばすのか、方針はあるのか。	にぎわい交流課	「現地へのアクセスが良かった」について、不満を感じた来訪者が多く、大変満足と感じたのは「おいしい食べ物」と「地元の人へのホスピタリティ」の項目が多くなりました。「おいしい食べ物」など満足度が高かった項目は情報発信に力を入れ、「現地へのアクセス」は改善に向けた検討を行う必要があると認識しています。
	4 KPIの住民満足度(%)について、2021年度の実績値は、前年度と比較できないということでしょうか。	にぎわい交流課	2021年度は事業開始年度であり、2022年度から実績値をお示ししていきたいと考えています。
	5 観光コンテンツ造成数の実績2件について、具体的にどのようなコンテンツか教えてください。	にぎわい交流課	フード＆クラフトツーリズム事業で2件の観光コンテンツを造成しました。 「阿波指物職人に学ぶ木と巧みに触れる体験型コンテンツ」、 「伝統工芸阿波しじら織体験型コンテンツ」

事業の名称	質問	担当課	回答
地方応援税制(企業版ふるさと納税)	1 ニューノーマルモデルの阿波おどりは具体的にどのようなものなのか教えてほしい。	にぎわい交流課	2021阿波おどりニューノーマルモデルは感染症対策や入場者を管理できる会場を基本に例年より規模を縮小して、2020年秋の実証イベントの検証結果を踏まえ、8/12前夜祭、13・14日選抜阿波踊り(あわぎんホール)、8/15グランドフィナーレ(無観客ライブ配信)を実施しました。